



## 人口減少社会の到来

### 次世代に責任ある神奈川づくりを目指して！

リニューアルしたホームページから、私の政策の一部をご紹介します。

『今、変わる努力をしなければ、神奈川県は今後、少子化、経済規模の縮小など衰退の一途を辿ることが懸念されます。正にその「岐路」に私たちは立っていると思います。

神奈川県の最大の課題は財政構造です。税金のムダ使いを徹底的に解消し、行政改革を徹底的に行っていく必要があります。しかし、それだけではどうにもならないところまで来ているのが、地方自治の実情であり、神奈川の現状です。

人口減少社会を迎え、このままでは「日本の将来が本当に不安だ」という共通認識が顕在化するなか、政治に求められるのは、新しい政治のかたち、それは次代につけを残さない、持続可能な仕組みづくりです。

20年後、30年後の、いえ、100年後の神奈川県を見据えて、速やかに着手しなければならない三つの課題を設定。私が特に取り組むべきと考える課題は「教育」「安全安心」「環境」の分野です。』

今回は「教育」についての私の政策をご紹介します。

#### ☆教育は未来への贈り物☆

- ・「子育ては、親の単眼でやると危うい。親以外の様々な人たちの『目』が必要で、日本はずっとそうやってきた。」—これは、民俗学の大家・大藤ゆきさんの言葉です。今、必要なのは、この「複眼教育」です。地域ぐるみの子育てです。子供達、近所のお兄さんお姉さん、ミドル世代、そして「経験・知識豊富な高齢者」が、ともに学び、育てる場作りをめざします。
- ・一人一人の生徒・児童に温かな配慮が行き届く教育を実現します。特に、神奈川県の県立高校は、生徒の多様性にいち早く注目し、個性豊かな人材育成に力を入れています。さらに、社会で生き抜く力をつけて高校を巣立するようなカリキュラムを徹底させます。
- ・生きづらさを感じる子ども達（いじめ・不登校・引きこもりetc.で苦しむ子ども達）の新しい選択肢を当事者の皆さんや識者の方と模索していきます。机上の空論になりがちなこの問題に、これこそ現場主義でしっかりと対処していきます。
- ・地域で支えるコミュニティスクールづくりを推進させます。斜めの力で放課後授業・クラブ活動に新しい活力を呼び込みます。



## 佐島が丘メガソーラープラント

横須賀市の佐島が丘にメガソーラー（大規模太陽光発電所）が4月4日に完成しました。相模湾と富士山が見渡せる一角で、発電量は一般家庭約800軒分がまかなえます。県内で稼働中の民間資本メガソーラーでは最大の規模です。4月23日に見学に行ってお話を伺って来ました。



（使用しているパネルはソーラーフロンティア製。日影に強い！熱に強い！とう特長があります。）

事業主体はマリーナ事業などを手掛ける株式会社「湘南サニーサイドマリーナ」で、総事業費は約12億円。**民間資本100%、補助金なし！**でつくられたこの施設は、神奈川県内で最大規模です。（東京電力などの公的機関をのぞく民間企業との比較です）

県では、メガソーラーを含む大規模太陽光発電施設の設置を促進するため、設置を検討する発電事業者と土地所有者とのマッチングを図っています。新聞各紙の報道によりますと、県内にメガソーラーを誘致していた2年ほど前の夏に、同社の羽柴社長から独自に造るという話をいただいたとの事。



案内していただいた羽柴公貴営業部長に、メガソーラー事業に参画したきっかけを伺いました。（詳しくは私のブログ内の動画をご覧ください）

認定発電容量は1,999kw、パネルの設置枚数は16,000枚。これまで、メガソーラーをいくつか調査しましたが、ソーラー設置の様子が、一望出来る場所は初めてです。高台にある広場から、パノラマ撮影してみました！（上の写真）

羽柴さんの印象的な言葉—『何のためにというビジョンをしっかりと持たなければ出来ない事業で

ある』。地域の人々に安定した電力を届けたい、そのために、出力が落ちてもおおよそ2メガの電力を確保するために、パネルの枚数も、他のメガソーラーより多く設置されています。この辺りにも、事業に対する心意気を感じました。

民間企業が自然エネルギーの電気事業に参入するために必要なのは「蓄電池」と「発電電分離」。この点について、羽柴部長と意見が一致しました。私もずーっと、発電電分離の必要性を訴えてきました。民主党政権で、少し実現に近づいたと感じましたが、最近はずっと後退した感があります。前に進めるために、同じ思いを持つ皆さんと、しっかりと活動していきたいと、改めて決意しました。